

現在の会員数 一般会員 141名 団体会員 8団体 協会員 10名 (平成30年7月現在)

講演会の報告(第31回会員集会)

日時:平成30年11月10日(土)13時30分~15時30分

場所:日本水道会館7階会議室

講演①:「復旧から今日までの沖縄の水道の道程」

(講師:金城 義信氏(元沖縄県企業局技監))



講演②:「東京水道1960~1980~2000概観」

(講師:川北 和徳氏(元東京都水道局長))



講演①では、沖縄における米国統治時代について、市町村への水道水を卸売りする琉球水道公社の設立により水道普及率が上昇したことを紹介された。また琉球水道公社を引き継ぐ形で用水供給事業として発足すべきとの小林康彦・元厚生省水道環境部長とのやりとり等、本土復帰後の取り組みの内容を紹介された。沖縄県では復帰後の約20年間は濁水との闘いだったことをふり返り、人口降雨機や屋久島からのタンカーによる水の移送などの検討を人生最大の苦い思い出と述懐、ダム開発や海水淡水化の積み重ねで沖縄における給水の安定度を高めたことを紹介された。

講演②では、昭和48年に上下水道課長として小笠原

に赴任された経験を踏まえた当時の水道事情を紹介された。当時、本土との電話通話ができず移動には38時間かかったこと、水不足が常態化しており、朝夕2時間の1日4時間給水の時もあり、最も不足していたのは通信手段と水であったことを紹介されるとともに、小笠原におけるダム開発や下水処理施設整備の概要を説明された。続いて東京水道60年の足跡として、施設能力が水需要を上回ったのは昭和55年頃で水不足のなか旺盛な水需要に対応に苦勞された当時を振り返られた。また配水量と漏水量、配水管延長と更新管路、配水管・給水管修理件数の時系列データを示し、漏水防止事業の効果と予防保全のための投資の意義を強調された。



定例幹事会の報告

日時:平成30年11月10日(土) 11時~12時

場所:日本水道会館7階会議室

議題:運営関連、出版企画、次回集会準備他

編集後記

第31回集会からはCPD受講証を発行しています。必要な方は受付時にお申し出ください。

引き続き、水を語る会活動に対しご支援・ご協力をお願い申し上げます。(幹事 星野力)

◆新規入会をご希望の方は、事務局までご一報下さい。詳しくはホームページをご覧ください。

→ <http://mizuwokatarukai.org/>

以上